

日本神話：花の姫

日本神話では、天地開闢の神話に続いて、太陽の女神であるアマテラスが孫であるニニギを天から降ろして天下を治めさせたという伝説があります。[SEP]天皇家の神々の系譜を示したこの一連の話は、ニニギが花の姫・コノハナサクヤと出会うところから始まります。2人は恋に落ち、ニニギはコノハナサクヤの父である山の神・オオヤマツミに結婚の承諾を求めることを決意します。

オオヤマツミはこれに同意しますが、ひとつ条件を出しました。ニニギはコノハナサクヤと彼女の姉である岩の姫・イワナガの両方と結婚しなければなりません。しかし、ニニギはコノハナサクヤだけを娶り、美しさで劣るイワナガを拒絶しました。激怒したオオヤマツミは、ニニギは2人の娘と結婚することでのみ、永遠の幸せを手に入れることができたと明かします。花は美しいけれども儂いのに対し、岩は見るからに冴えないけれども永遠に続きます。イワナガを拒絶したことで、ニニギは不死を手放してしまいました。古代日本において、この運命的な選択は、生ける神とされてきた日本の天皇が普通の人間と同様に死ぬこととなった理由を説明しています。

コノハナサクヤはすぐに三つ子を妊娠しましたが、ニニギは子供たちが彼の子であると信じることはできませんでした。コノハナサクヤは、神の子供は何があっても無傷で生まれてくると確信して、小屋に自らを閉じ込めて火を放ちました。3人の男の赤ん坊が母親と一緒に炎の中から現れました。